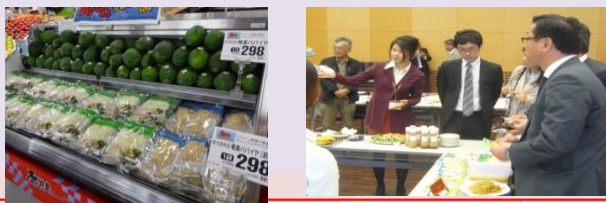


【全体概要】

現在、実需者、生産者ともに、徳之島地域の温暖な気候を活かせる熱帯果樹品目のパパイヤについて、新たな需要を開くために、青果物流通の可能性に加え、未熟果のカット野菜、加工野菜、機能性食品等の商品開発と同時に消費の可能性を探りたい意向があった。このため、本事業においては、①供給安定のための手法、②野菜、青果、加工のそれぞれの消費志向に適した品種選定、③機能性と活用方法、④生産と経営性について、試作・検討を行い、生産と流通のマッチングによる産地化を目指す。

新品種・新技術等の概要

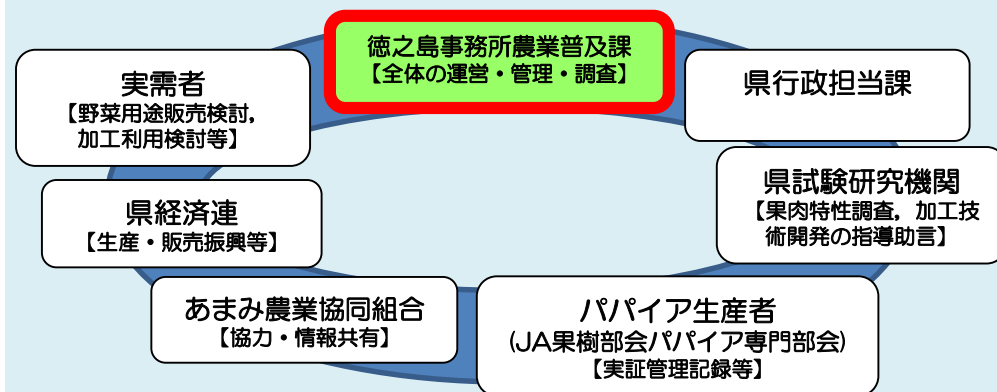
- 品種：石垣サンゴ、台農2号、徳之島在来パパイヤなど
※パパイヤの用途が、従来の漬け物加工用から、野菜用、青果用と多岐にわたる流通も期待されている。特に、野菜用の青パパイヤはパバイン酵素を含み、タンパク質、糖質及び脂肪分解の機能性や食肉加工でも肉を軟らかくする効果が期待できる。一方、徳之島地域での生産面では不明な点が多く、用途に適した品種選定を含めて検討する。
- 技術：台風危険性を回避できる栽培法の検討
 - ①露地栽培の作付時期と生産性の検討
 - ②平張り施設を活用した栽培における生産性の検討
 ※台風の常襲地帯であることから、①台風被害を回避する ②鋼材よりも資材経費を多く必要としない を視点に栽培特性と生産性、経営性について検討する。



主な取組内容

- 品種・技術の特性把握
 - ・果実の形状、特性の検討
 - ・加工特性、機能性の調査検討
- 栽培・技術マニュアルの作成
 - ・当初4品種（台農2号、農友1号、レッドレディ及びオキテング）を比較。加工用途は果実形状等からレッドレディとオキテングを選定し、研修会で地域へ波及
 - ・販売単価を決定する上で、経営性に係る資料を作成し、実需者と協議
- 産地・実需者の発掘調査
 - ・県内外の類似産地の情報収集（宮崎、沖縄）
 - ・地域農業者の組織化（JAあまみ徳之島果樹部会/パパイヤ専門部会）設立
- 品種・技術と産地・実需者とのマッチング活動
 - ・産地・実需者との意見交換会を開催
 - ・加工適性の検討を実施

コンソーシアム候補の体制図



課題と今後の対応

- パパイヤはコンソーシアム候補（関係者）から有望視されている実需者が、平成26年度に野菜用途として奄美フェア（3回開催）で販売検討を行った結果、2年目の27年度以降は、販売店舗を拡大することから、産地側も生産組織体制の整備、面積及び生産量の拡大に取り組む。
- 野菜用パパイヤの苗木の安定供給
生産安定を図るために、加工用として選定された2品種については、苗木の安定供給を図る。
- パパイヤの機能性の用途検討
パパイヤ固有の機能性成分の活用用途を検討する。